九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Identification of Intranuclear Inclusions is Useful for the Cytological Diagnosis of Ovarian Clear Cell Carcinoma

仲, 正喜

https://hdl.handle.net/2324/1654740

出版情報：九州大学, 2015, 博士（保健学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

（様式６－２）

氏　　名	仲　正喜
論　文　名	Identification of Intranuclear Inclusions is Useful for the Cytological Diagnosis of Ovarian Clear Cell Carcinoma （核内封入体の同定は卵巣明細胞腺癌の細胞診断に有用である）
論文調査委員	主　査　　九州大学　教授　栢森　裕三 副　査　　九州大学　教授　永淵　正法 副　査　　九州大学　教授　藤本　秀士

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

卵巣癌は、最新の WHO 分類に基づくと、低異型漿液性腺癌、高異型漿液性腺癌、類内膜腺癌、粘液性腺癌、明細胞腺癌の組織亜型に分類される。これらの卵巣癌は組織亜型により化学療法の感受性に差異があり、特に明細胞腺癌は予後不良なことが報告されている。そのため、正確な組織亜型診断は適切な治療選択の上で重要である。卵巣癌の組織亜型診断は、通常病理組織学的に行われるが、ときに切除不能な腫瘍の亜型分類に細胞診が必要となり、各組織亜型の細胞学的所見を詳細に特徴づけすることは臨床診断上重要である。

本論文は、明細胞腺癌の細胞に核内封入体が観察されることに注目し、卵巣明細胞腺癌における核内封入体の診断的意義について明らかにすることを目的としている。

研究材料は、卵巣腺癌例 98 例（明細胞腺癌 28 例、漿液性腺癌 37 例、類内膜腺癌 22 例、粘液性腺癌 11 例）から得られた捺印細胞診 98 標本と腹水細胞診 53 標本を用いて以下の観察を行った。

1）捺印標本を用いた各組織亜型における核内封入体陽性症例率
2）捺印標本を用いた各組織亜型における核内封入体陽性細胞出現率
3）腹水標本を用いた各組織亜型における核内封入体陽性症例率
4）明細胞腺癌の細胞診断における核内封入体存在の感度と特異度

それらの結果、以下の点を明らかにしている。

1)明細胞腺癌の核内封入体陽性症例率（96.4%)に対して、漿液性腺癌（13.5%)、類内膜腺癌（13.6%)および粘液性腺癌（18.2%)よりも有意に高値であった（$p<0.001$)。また、１つの核内に２個以上の核内封入体が出現していた細胞は明細胞腺癌にのみ観察された。
2)明細胞腺癌の核内封入体陽性細胞出現率（中央値，0.41%)に対して、非明細胞腺癌（0.010%)よりも有意に高値であった（$p<0.001$)。
3)腹水標本を用いた明細胞腺癌の核内封入体陽性症例率（78.6%)に対して、漿液性腺癌（10.0%)、類内膜腺癌（0%)および粘液性腺癌（0%)よりも有意に高値であった（$p<0.001$)。
4)核内封入体の感度は 96.4%、特異度は 85.7%であった。

以上、本論文結論として核内封入体の同定、特に高頻度で１つの核内に複数個認められる所見は明細胞腺癌の細胞学的診断に有用であることを示し、さらにこの結論は腹水細胞診にも適用できる

ことを示唆したものである。
また、論文審査においては研究の目的、方法、結果について論文審査委員により種々の質問やコメントがあったが、これらに対しては適切な説明、回答がなされた。本論文は卵巣明細胞腺癌の組織亜型診断において核内封入体が存在することが判定基準のひとつになることを明らかにしたものであり、調査委員の合議の結果、本論文は博士（保健学）の学位に値すると認めた。